

[演題6]

## 回復期リハビリテーション病棟 専従療法士導入の効果

○桑原未来<sup>1)</sup> 河井裕史<sup>1)</sup> 平野亜実<sup>1)</sup> 青山悌也<sup>1)</sup> 中村 愛<sup>1)</sup> 林 誠二<sup>1)</sup> 村尾 浩<sup>2)</sup>  
1) 清恵会三宝病院リハビリテーション科  
2) 神戸学院大学総合リハビリテーション学部

Key Words：病棟専従療法士、機能的自立度評価 (FIM)、自宅復帰率

### 1. はじめに

当院の回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期病棟）では、重症患者の増加に伴い平成22年10月1日以降に病棟専従療法士体制を導入した。入院患者担当療法士（PT、OT、ST）によるリハビリテーションに加えてPT2名・OT2名が病棟看護師および介護士と連携し、具体的な介助方法の伝達や移動能力の確認を行うと共に、障害像に合わせた適切なリハビリテーションを実施した。今回の調査の目的は回復期病棟専従療法士導入の効果を明らかにすることである。

### 2. 対象と方法

対象は平成21年10月から平成23年9月に回復期病棟に入院した患者のうち、入院時FIM点数の運動項目が66点以上および認知項目が24点以下の患者を除外した91名とした。調査項目は入院時FIM点数、退院時FIM点数、退院先とし、平成22年9月30日以前に退院した患者（以下、非実施群：38名、年齢 $77.4 \pm 11.1$ 歳、運動器60%・脳血管40%）と平成22年10月1日以降に入院した患者（以下実施群：53名、年齢 $76 \pm 10.1$ 歳、運動器47%・脳血管53%）に分け比較した。

### 3. 結果

非実施群、実施群それぞれ、入院時FIM点数は $82.0 \pm 13.7$ 点、 $81.0 \pm 16.5$ 点（ $P=0.35$ ）、退院時FIM点数は $97.1 \pm 20.6$ 点、 $97.7 \pm 19.2$ 点（ $P=0.22$ ）、FIM利得は $15.1 \pm 13.5$ 点、 $16.7 \pm 11.3$ 点（ $P=0.14$ ）（Mann-Whitney U test）、自宅復帰率、68%、83%（ $p<0.05$ ）（ $\chi^2$ 検定）であった。

### 4. 考察

病棟専従の療法士を配置したことで他職種と連携をとる機会が増加し、患者の訓練室以外での生活像を共有することができ、自宅生活様式に合わせた環境設定やADL訓練を入院後早期に提供できたため自宅復帰率が向上したと考えられる。また、家族との情報共有も要因と考えられる。